

2012 年 9 月 21 日（金）13：00～15：00

(一社)大学女性協会と WLB

内閣府男女共同参画推進連携会議

1. 大学女性協会（JAUW）とは
2. 大学女性協会（JAUW）の歩み
3. 大学女性協会（JAUW）の活動

2007 年度 全国セミナー「教育とジェンダー」

基調講演「女性のライフコースと教育－ジェンダーの視点から」天野正子

：お茶の水女子大学名誉教授、東京女学館大学学長

研究発表「子育てと両立できる新しい働き方－育児休業と職場復帰を中心に」新潟支部

内閣府・男女共同参画推進連携会議との共催（2008、2009）

テーマ「ワーク・ライフ・バランス」

2008 年度 シンポジウム 10/25(土) 女性と仕事の未来館

「WLB をめざして－育児・介護等を含めたケア・ワークへの男女共同参画」

2009 年度 全国セミナー 10/17～18(土・日) 国立女性教育会館

「ワーク・ライフ・バランスの実践－教育・労働・生活保障（福祉を含む）の分野で」

2008 年度シンポジウムプログラム

共催者代表挨拶（開会の言葉）（板東久美子：内閣府男女共同参画局長）

基調講演「ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて」大沢真理：東京大学教授

事例報告（大学女性協会 4 委員会、4 支部）の例

- ・ワーク・ライフ・バランス推進に関する企業調査－首都圏と名古屋圏調査から見えるもの：国内 NGO 委員会
- ・大学・研究機関における職場内保育施設の利用状況－男性の育児参加に向けて：教育委員会
- ・神奈川県内の企業における男性の育児休業取得状況を中心に：神奈川支部
- ・夫婦共同による仕事・育児ケア体験に基づく次世代への提言－奈良支部会員の場合
- ・自分らしく生きたい－仕事も家庭も地域活動も－：岡山支部
- ・親の生き方をそのまま見せること：社会福祉委員会
- ・ワーク・ライフ・バランス－その取り組みの国際比較－（IFUW 加盟国へのアンケートを通して）：国際委員会

パネルディスカッション「育児・介護等を含めたケア・ワークへの男女共同参画」

パネリスト 池田 守男 株式会社資生堂 相談役

春日 キスヨ 松山大学 教授

樋口 恵子 特定非営利活動法人高齢社会をよくする女性の会 理事長

	山口 洋子	日本労働組合総連合会 副事務局長
	山田 正人	独立行政法人経済産業研究所 総務副ディレクター
司会	房野 桂	社団法人大学女性協会 会長

2009 年度 全国セミナー

テーマ「ワーク・ライフ・バランスの実践－教育・労働・生活保障（福祉を含む）の分野で」

2009 年度全国セミナープログラム

基調講演「ワーク・ライフ・バランスと国民運動」上川陽子：元男女共同参画・少子化対策担当大臣

調査・研究報告（大学女性協会 5 委員会、7 支部）の例

- ・文部科学省の「女性研究者支援モデル育成」事業の現状と課題：教育委員会
- ・海外の取組み－男女の性別役割分担意識の変容のために－：国際委員会
- ・女性労働の現状とワーク・ライフ・バランス－新たな制度設計に向けて－国内 NGO 委員会
- ・無償労働の測定と評価から見たワーク・ライフ・バランスの課題と政策化に向けての提言：女性の地位委員会
- ・高齢社会をどう生きるか－新宿区にみる老いと女性－：社会福祉委員会
- ・日本に暮らす外国人とワーク・ライフ・バランス：静岡支部
- ・若者のワーク・ライフ・バランス意識～2008 年度支部意識調査結果から：茨城支部
- ・奈良県の「なら男女 GENKI プラン」にみるワーク・ライフ・バランスの現状
- ・ママたちのワーク・ライフ・バランス～私たちに何ができるか：栃木支部
- ・農山村女性のワーク・ライフ・バランスのために～福岡の過疎山村調査から：福岡支部

パネルディスカッション

パネリスト	牧野 カツコ	お茶の水女子大学名誉教授
	佐藤 博樹	東京大学社会科学研究所教授
	片岡 千鶴子	日本労働組合総連合会男女平等局局长
コーディネーター	房野 桂	大学女性協会 会長

分科会討議：教育、労働、生活保障（福祉を含む）

分科会報告：教育、労働、生活保障（福祉を含む）

全体討議

要望書 「男女共同参画基本計画（第 3 次）の策定に向けた要望」 内閣総理大臣あて 11/9
教育に関して、労働に関して、生活保障に関して、男女平等社会実現に関して

4. 男女平等社会実現には、ワーク・ライフ・バランスの実践が必要であり、政・労・使・官一体となって、その定着に今後とも努力すること。特に経営者や管理職への啓発を積極的にすすめること

（同文の要望書を、全閣僚と内閣府「基本問題・計画専門調査会」委員各位に送付）

2010 年度 シンポジウム「改めて問う『国際社会と連携する NGO 活動』とは」
基調講演「国際社会と連携する NGO 活動とは」松浦晃一郎：前ユネスコ事務局長

2011 年度 全国セミナー「改めて問う『市民社会を構成する NGO 活動』とは」
基調講演「市民社会を構成する NGO 活動」大西珠枝：放送大学学園理事
支部研究発表

新潟支部「企業におけるワーク・ライフ・バランス推進の取り組み」
－新潟県ハッピーパートナー企業アンケート調査

2012 年度 シンポジウム「男女共同参画社会を形成と教育」10/14(日) 日本女子大新泉山館
内閣府男女共同参画局、文部科学省、日本女子大学の後援
基調講演Ⅰ 「男女共同参画社会に資する学校教育・大学とは」村松泰子：学芸大学学長
基調講演Ⅱ 「女性の政治参加、災害と男女共同参画」堂本暁子：前千葉県知事、
元参議院議員

シンポジウム1「男女共同参画社会と教育」

シンポジウム2「女性の政治参加」

別添資料 大学女性協会の歴史、
JAUW 案内パンフレット、2012 年度シンポジウムパンフレット

(一社)大学女性協会 副会長 牧島悠美子

大学女性協会の歴史

—大学女性協会（JAUW）の歩み—

- 1946 年 ・1919 年、International Federation of University Women (IFUW 国際大学婦人連盟) 創設
- ・アメリカの大学卒業生により AAUW (アメリカ大学婦人協会) 日本支部が設立されたが、1946 年 10 月、AAUW 日本支部を発展的解消し、アメリカ政府の教育顧問として来日中の Dr. Lulu Holmes の尽力により、新制女子大学の前身として長い歴史をもつ下記の 8 専門学校卒業生の有志が集まり、Japanese Association of College Alumnae (JACA 大学婦人協会) を創立
- 東京女子高等師範学校 (現お茶の水女子大学)、日本女子大学 (現日本女子大学)、津田塾専門学校 (現津田塾大学)、奈良女子高等師範学校 (現奈良女子大学)、神戸女学院専門学校 (現神戸女学院大学)、同志社女子専門学校 (現同志社女子大学)、聖心女子学院高等専門学校 (現聖心女子大学)、東京女子大学 (現東京女子大学)
- 1947 年 ・JACA 第 1 回総会開催。初代会長に藤田たき氏就任。奨学金委員会を設立、JACA 設立の目的の一つである女子高等教育推進の第一歩となる
- 1949 年 ・Japanese Association of University Women (JAUW 大学婦人協会) と改称
- 1952 年 ・Dr. Lulu Holmes から寄贈された資金をもとに、ホームズ奨学金基金を設立
- 1954 年 ・International Federation of University Women (IFUW 国際大学婦人連盟) に加盟
- 1955 年 ・婦人文化賞贈呈 (植村環・吉岡弥生・保井コノ・山崎 光・大橋 広・黒田チカ・井上 秀・星野あい・羽仁もと子・辻 マツの各氏)、受賞者 10 名を名誉会員とする
- ・第 1 回ホームズ奨学金授与
- 1958 年 ・4 月 1 日付をもって社団法人の認可を受ける
- 1963 年 ・東南アジア地域研究開始
- 1970 年 ・日米合同セミナーを大磯アカデミーハウスにて開催、テーマ：“国際理解・教育と学生運動・都市化の問題”
- ・本部事務所を新宿区新宿戸山マンションに開設
- 1974 年 ・IFUW 第 18 回総会をホテル・ニューオータニ (東京)・国立京都国際会館 (京都) において開催
- 1979 年 ・太平洋地域セミナーを開催、テーマ：“よき明日に向かって「今までにやれたこと／これからやりたいこと」”
- 1980 年 ・IFUW 会長に高野フミ氏就任 (1980～1983)
- 1981 年 ・文部省国庫補助事業として、「80 年代を生きる—高齢化社会を迎えて—」を主テーマに、セミナーを支部及び全国 4 地区で開催、まとめとして全国セミナーを東京・京王プラザホテルにおいて開催。
- 以後 2004 年まで毎年継続し、教育・環境・国際理解・高齢者問題・社会福祉・ボランティア活動・女性の社会参加等現代の問題をテーマとする全国セミナーを開催、会員の声を要望書を通して関係各省庁等へ提出
- ・国外奨学金制度を設定 (IFUW 加盟大学婦人協会員を対象)
- 1990 年 ・医師・故安井潤氏のご遺族から医学関係の学徒にと寄贈された資金をもとに、安井医学奨学金制度を設定
- 1995 年 ・第 25 回 IFUW 総会を横浜国際平和会議場・第一生命戸塚教育センターにおいて開催、テーマ：“女性の未来は世界の未来—生存と進歩のための教育”
- 1996 年 ・JAUW 創立五十周年祝賀会を開催、五十年史出版
- 1997 年 ・化学教育者・故守田純子氏から遺贈された資金をもとに、守田科学研究奨励賞を設定
- ・本部事務所を新宿区左門町信濃町テラスに移転
- 1998 年 ・第 1 回守田科学研究奨励賞贈呈
- 1999 年 ・教育委員会の中に「留学生と日本文化を学ぶ会」発足。留学生に日本の伝統文化を紹介し、留学生との相互理解を深める
- 2001 年 ・新しい世紀を記念して、奨学金を始めとする JAUW の事業の一層の拡大のため、津田ホールにおいて「天満敦子氏のヴァイオリンコンサート」を開催
- ・IFUW 会長に青木怜子氏就任 (2001～2004)
- 2002 年 ・情報委員会発足、新 WEB サイトを立ち上げ、JAUW の情報環境の整備化がスタート。全国セミナー (テーマ：女性と情報社会—その光と影) においても情報化社会の諸問題および展望について研究発表
- 2004 年 ・文部科学省国庫補助事業終了。引き続き JAUW 主催シンポジウムとセミナーを隔年で行う
- 2005 年 ・国内奨学金資金のための募金事業
- 2007 年 ・JAUW 創立六十周年を記念して、IFUW・JAUW 関係資料集を出版
- 2008 年 ・Japanese Association of University Women (JAUW 大学女性協会) と改称
- 2011 年 ・東日本大震災災害地支援事業の実施 (募金事業、高校生対象の奨学金事業)
- 2012 年 ・法人改革により、3 月 21 日付をもって一般社団法人の認可を受け、4 月 1 日付をもって一般社団法人に移行
- ・一般社団法人移行を記念して、津田ホールにおいて「久保陽子氏のヴァイオリンコンサート」を開催